

麦の穂

発行責任者 医療法人光臨会 理事長 荒木 攻

82

令和2年
1月10日発行

医療法人 光臨会
荒木脳神経外科病院
Araki Neurosurgical Hospital

新年御挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、新元号「令和」という希望に満ちた新しい時代を迎えた年でしたが、全国的に災害が多く甚大な被害がもたらされた一年でもあり、今年こそは災害が無い平穏な一年になるよう願っております。

昨年、当院では日本脳神経血管内治療学会研修施設認定の取得や脳卒中集中治療室(Stroke Care Unit)を3床から6床に増床するなど、脳卒中治療領域において効率的で質の高い超急性期・急性期治療を行う体制を整えることができました。又、広島市消防局が実施するジャストスコア：脳卒中病型判定アプリを使用した新しい脳卒中救急搬送体制「脳血管内治療における救急診療体制(病院前救護)」にも積極的に参加しほぼ100%応需するなど、地域の救急医療にも貢献して参りました。

今年は「治療可能な認知症」として注目された治療ニーズの増加が予想される特発性正常圧水頭症(idiopathic normal pressure hydrocephalus : iNPH)にも積極的に取り組み、iNPHセンターの設立を計画し、さらなる治療成績の向上を目指して参ります。

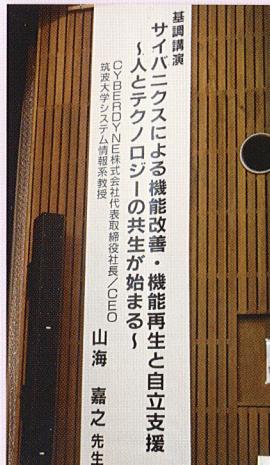
又、昨年7月に当院グループ会社の株式会社シャレムが運営する、広島県で初めてとなる「広島ロボケアセンター」を開設しました。7月6日にはオープニングイベントとして、筑波大学教授・CYBERDYNE株式会社代表取締役社長の山海嘉之氏をお招きして、記念講演会を開催いたしました(写真)。CYBERDYNE株式会社が開発したロボットスーツHAL®を使用したパーソナルトレーニングを提供する施設として、皆様の健康増進に寄与できればと考えております。

恒例となりましたが、当院に事務局を置く一般財団法人広島脳神経外科協会主催「第7回Neurosurgery Update in Hiroshima」を昨年9月に開催し、「脳卒中医療の進歩」～予防・治療・リハビリテーション～をテーマに著名な先生方を講師としてお迎えして、大変有益な講演と好評を博し、盛会裏に終えることが出来ました。今年は、詳細はまだ未定ですが、市民公開講座を8月29日(土)広島国際会議場「ひまわり」にて開催する予定です。皆様方の多数の御参加を期待しております。

今年は診療報酬改定の年です。医療界も人材不足の中、働き方改革をはじめ我々を取り巻く環境は厳しくなるばかりですが、職員一丸となり急性期医療の中核病院として、地域の皆様から必要とされ、信頼される病院づくりを目指して参ります。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

令和2年元旦
医療法人光臨会
理事長 荒木 攻



広島ロボケアセンター
オープニング記念講演会

山海嘉之教授(令和元年7月6日)

もくじ

- ① 理事長新年御挨拶
- ② 第16回 広島脳卒中市民シンポジウム・シンポジスト参加報告
- ③ 「第2回荒木脳神経外科病院地域連携の会」を開催しました！
「インフルエンザ対策」についての研修会を開催しました！
- ④ 第35回西区民まつりに参加して／管理栄養士のおすすめメニュー
- ⑤ 連携医療機関のご紹介——(おりづるクリニック)——



第16回 広島脳卒中市民シンポジウム・シンポジスト参加報告

日本脳卒中協会広島県支部では、毎年12月に脳卒中啓発活動の一環として患者・家族など一般市民を対象に市民公開講座を開催しています。2019年12月22日（日）第16回広島脳卒中市民シンポジウムが開催され、シンポジストとして参加させて頂きました。

この度は脳卒中医療の充実のため2019年12月1日から施行された「脳卒中・循環器病等対策基本法」を受けて「これからどうなる脳卒中診療！」と題し、広島県の脳卒中診療の現状と展望が討論されました。私からは2019年4月1日より開始された、広島市を中心とした新たな脳卒中患者の救急搬送システムについて講演をさせて頂きました。

脳卒中の治療は時間との戦いです。特に太い血管がつまるタイプの脳梗塞である主幹動脈閉塞症に対しては、近年カテーテルを用いた脳血管内治療（血栓回収療法）の有効性が明らかとなり、従来の治療法に増して時間の短縮が重要となっています。広島市では、救急隊が現場でアプリ（兵庫医科大学が開発したジャストスコア）を用いて脳卒中の可能性とその病型を判別し、適切な救急搬送へ繋げる試みが始まりました。

救急隊と医療機関どうしが情報を共有し、主幹動脈閉塞症が疑われた患者を血栓回収療法ができるだけ早く開始できる体制を整えた施設へ迅速に搬送する試みであり、全国的に注目されています。シンポジウムでは、この広島市での新たな取り組みが広島県全体に応用される方向性が確認されました。

脳卒中は日本人の死亡原因の第4位で、寝たきり原因の第1位です。「脳卒中・循環器病等対策基本法」の施行により、どこに住んでいても同じように適切な脳卒中治療が受けられ、少しでも多くの方が脳卒中から救われる事が期待されます。

院長 荒木 勇人

プログラム

一 第1部 — 特別講演「中国四国地区の脳卒中治療の現状と課題 —広島県と他県の違いは？—」

[演者] 宇野昌明先生 川崎医科大学脳神経外科 教授 日本脳卒中協会岡山県支部 支部長

[座長] 栗栖 薫先生 広島大学大学院脳神経外科学 教授 日本脳卒中協会広島県支部 支部長

一 第2部 —シンポジウム

[司会] 丸山 博文先生 広島大学大学院脳神経内科学教授 日本脳卒中協会広島県支部 副支部長

[司会] 大田 泰正先生 社会医療法人祥和会理事長 日本脳卒中協会広島県支部 副支部長

- ・「行政の立場からみた対策基本法について」田中剛先生 広島県健康福祉局長
- ・「広島県医師会の立場からみた対策基本法について」中西敏夫先生 広島県医師会 常任理事
- ・「広島市における病院前脳卒中分類スコアを活用した新たな脳卒中診療について」
荒木勇人先生 医療法人光臨会荒木脳神経外科病院 院長



院長講演の様子

「第2回荒木脳神経外科病院地域連携の会」を開催しました!

2019年11月27日（水）メルパルク広島において「第2回荒木脳神経外科病院地域連携の会」を開催致しました。当院が日頃の診療で大変お世話になっている西区の先生を中心として、お互いに顔の見える関係を築き、今後の診療に役立てたいとの趣旨で、お忙しい中、今回も諸先生方や関連専門職種の方々など、地域医療に貢献されている大勢の皆様に御参加頂きました。昨年は荒木脳神経外科病院の変革や診療内容の概略を説明させて頂きましたので、今回は当院に関することは診療担当医および当院地域連携推進部門の紹介のみとした一方で、松井一貴広島市長をお招きし、「広島市の目指す地域包括システム～西区における取組を中心に～」と題する特別講演を賜りました。在宅医療、認知症対策、介護予防に関するお話の後、西区が他地域に先駆けて重点的に取り組んでいる西区在宅安心病院システム、認知症疾患医療センター・認知症初期集中支援事業、地域リハビリテーション活動支援事業などをご紹介頂き、最後に現時点での地域包括ケアシステムの問題点の把握と課題の共有が重要であるとご指摘され、国に言うべきことは言う、という決意を示されました。公務でほんとうに御多忙の中、松井広島市長様には心より御礼申し上げます。ご講演に引き続いて懇親会が開かれ、先生方をはじめとした多職種の方々がグラス片手に当院の医師や他の参加者の方々と歓談され、親交を深められたと思います。このような会を開いて頂くと当院を知ることができて有難い、という意見を今年も頂き、うれしい限りです。これからもこのような会を継続していくことでよりお互いの親交を深め、地域医療に貢献できることにつながれば望外の喜びです。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域連携推進委員長
江本克也



松井市長のご講演



懇親会の一コマ

「インフルエンザ対策」についての研修会を開催しました！

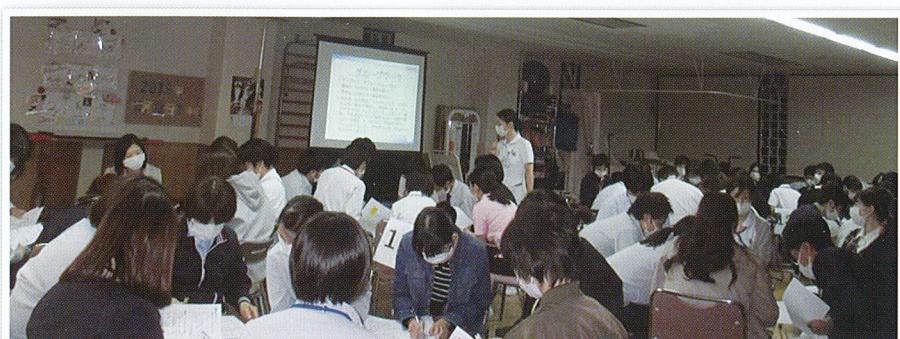
朝晩は冷え込み、空気が乾燥する季節となり、様々なウイルスが増殖しやすい時期となりました。年末年始は、何かと忙しい毎日です。できれば毎日、元気に過ごしたいものです。どうやって感染症を予防し、対策を行えばいいのでしょうか？

そこで、秋・冬シーズンの感染症の代表例であるインフルエンザ対策についての研修会を10月に入職3年目未満を対象とした『基礎編』を3回、11月に全職員を対象とした『実践編』を4回、開催しました。

基礎編では、インフルエンザウイルスの特徴や感染経路、対策について学んでいただき、実践編では、グループワークを行い、事例に基づいたDVDを活用し、ディスカッションを行い、学びを深め、共有していただきました。また、感染対策に求められる組織の在り方について考えていただきました。

私達、医療従事者は、患者さんに質の高い医療や看護を提供し、地域に戻られる支援を行っています。各々が専門性を発揮し、役割を果たし、全職員が一丸となって安全・安心な医療の実践につなげていくことを再確認しました。

感染制御チーム
(ICT)一同



研修会の様子

第35回 西区民まつりに参加して

2019年11月3日（日）広島サンプラザと西部埋立第五公園で開催された第35回西区民まつりに今年も参加しました。

当院のブースでは昨年同様に、血管いきいき度検査、長く健康に生活するための体力が保てているかを見る体力測定、そして白衣やナース服を着てお医者さんや看護師さんになりきるキッズ撮影会のコーナーを設けました。

当日は総勢300名を超える地域の方々が当院のブースを訪れてくださいました。血管いきいき度測定や体力測定では、スタッフからの説明に熱心に耳を傾けて下さる方々の姿が見られ、また、キッズ撮影会ではたくさんの子供たちが白衣に身を包み、救急車のパネルの前で思い思いのポーズをとっていました。この機会を通じて、皆さまには健康を保ち続けることへの意識を高め、また医療や看護への興味をお持ちいただけたのではないかと思います。

当院では、今後もこのような地域活動を継続し、地域住民の皆様が健やかな生活を送り続けられるよう支援をしていく所存です。来年の西区民まつりでも引き続き当院のブースへのお越しをお待ちしております。

地域連携推進部門 地域連携室 室長 佐々木 洋



ブースの様子



活動中の1コマ

管理栄養士のおすすめメニュー

《みかん》 正しくは温州（うんしゅう）みかんといいます。日本の特産で、冬の果物の代表的な存在です。みかんには、様々な効能（風邪、動脈硬化、高血圧、便秘、がん予防など）があるうえ、クセのない味で飽きずに食べられる優れた食品です。

みかんには、ビタミンCが100g中35mgと豊富に含まれており、1日3個食べれば成人の1日必要量を摂取できます。みかんが風邪予防に良いとされるのは、ビタミンCによるものです。酸味の主役はクエン酸です。みかんには、クエン酸やリンゴ酸など酸味成分も多く含まれているので、エネルギー代謝を高め、体の疲れを早くとる働きがあります。また、腸を刺激し活性化させる効果もあるため、常食していれば便秘にも効果があります。

また、みかんは毛細血管を健全にします。これはペクチン（食物に含まれる糖分の一種）がコレステロールを分解し、カリウムが血液をアルカリ性に維持するからで、動脈硬化や高血圧の予防に効果があります。果実はもとより、袋や皮、皮の内側の白い筋の部分にもそれぞれ栄養素が含まれており、捨てるところがないといわれるほど利用効果が高い果物です。



☆みかんりんご酢



- ① みかん(200g)は皮をむいて輪切りにし、耐熱のボールに入れてリンゴ酢(200cc)、はちみつ(50g)を入れ、ラップをせず電子レンジに30~40秒かけて常温で1晩置く。
 - ② ①を広口瓶に入れ、冷蔵庫で保存する(2~3週間以内)
- りんご酢を使用して飲みやすくしています。基本的には炭酸水などで割って飲みます。使ったみかんはヨーグルトなどに入れて食べられます。



連携医療機関のご紹介



おりづるクリニック

住 所：〒730-0805 広島市中区十日市町2-10-18

T E L：082-942-0033

F A X：082-942-0077

診療科目：内科・在宅医療

院 長：柳部 憲佑

診療時間：9時～17時

休 診 日：土・日・祝日

※往診、緊急対応は随時行っております。



院長 柳部 憲佑先生



当院は平成30年10月に広島市中区十日市に開業し、在宅診療を中心として行っております。おかげさまで1年以上が経過し、協力医療機関の皆様や多職種の皆様との連携により、何とかやってくることができました。心から感謝申し上げますとともに、これからもより深い連携を図っていけたらと望んでおります。

在宅診療に関して、当院では個人宅を中心にグループホームや介護付き有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等を回りながら診療しております。昨今の高齢化に伴い、例に漏れず高齢者の割合は非常に多いですが、若年者でも脳血管疾患の後遺症や神経難病での在宅療養にも対応しております。また終末期医療も積極的に取り組んでおり、患者または患者家族の希望があればできる限り在宅での看取りも行っています。

診療圏はかなり広い範囲をカバーしており、ご依頼があれば可能な限りお受けしようと考えています。様々な方からご依頼がありますが、何らかの想いをもって当院にご依頼いただいていると思いますので、その想いに応えられる様にこれからも頑張ります。

ただし、在宅での診療には出来ることに限りがございます。脳血管疾患や心疾患等の急性期疾患や、転倒などの外傷疾患、重度の感染症に関して、治療や画像診断は現場では不可能なことがしばしばです。また、専門外の疾患の対応もやはり限界がございます。そのような時には地域の協力医療機関のお力添えを頂きながら診療に努めています。

荒木脳神経外科病院にも脳血管障害疑いや転倒での頭部外傷治療等、特に頭部の急性期疾患に関して大変お世話になっております。急患の受け入れ要請や検査依頼をお願いしておりますが、いつも迅速にご対応いただき大変勇気づけられております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私は広島で生まれ育ち、広島に大変愛着を感じております。これからも広島の地域医療に貢献していく所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。



医療法人光臨会 理念

- 皆様に安心していただける、全人的な医療と介護を目指します

荒木脳神経外科病院 理念

- 脳神経外科としての専門性を軸に、幅広い診療体制で地域医療に貢献します
- 急性期医療の中核病院として、高機能で質の高いチーム医療を行います

運営方針

- 「医療の原点は救急である」
- 快適な療養環境と接遇の提供
- チーム医療の推進と相互啓発
- 「医療と福祉の複合化」の推進

患者様の権利

医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院は、職員全員が次のような患者様の権利を尊重し、納得と同意に基づいた医療を行います

- 個人の尊厳が守られる権利を尊重します
- 最善かつ安全な医療を受ける権利を尊重します
- 医療に関して知る権利を尊重します
- 個人のプライバシーが守られる権利を尊重します
- 自分自身の治療等について自分で決定する権利を尊重します
- 自分自身の治療について他の医師の意見を聞く権利を尊重します
- 苦情を申し立てる権利を尊重します

患者様の義務

- 患者様には適切かつ安全な医療を受ける為、診療上必要な自らの情報を正確に伝える義務があります
- 患者様にはお互いに快適な療養生活を受ける為に、定められた規則を守る義務があります。

外来担当医表

			月	火	水	木	金	土
脳神経外科	午前	初診(1診)	渋川	中原	沖	江本	太田	広大
		初再診(2診)	荒木(勇)	太田	江本	沖	渋川	江本
		初再診(3診)	沖	野坂	加納		加納	
	午後	初再診	野坂	加納 (1・3・5週) 沖 (2・4週)	広大	加納	沖	広大
脳神経内科	午前	初再診(3診)				青木		
総合診療 (内科・外科)	午前	初再診(4診)	野村	浅本	藤井	浅本	藤井	野村
	午後	初再診(4診)	藤井	浅本	野村	浅本	野村	野村
	午前	検査		浅本		野村 浅本		
	午後	検査		浅本	野村	浅本		
脳神経外科 消化器内科	午前	初再診(5診)		荒木理事長	渋川		荒木(勇)	井上

診察時間

◆完全予約制

午前 9時～12時
(初診受付：午前 11時30分迄)
午後 3時～6時
(初診受付：午後 5時30分迄)

救急は 24 時間受付けております

※井上名誉教授
第1土曜日 月1回

医療法人光臨会



荒木脳神経外科病院

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-272-1114 FAX 082-272-7048
E-mail info@arakihp.jp
ホームページアドレス http://www.arakihp.jp

荒木訪問リハビリテーション

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-527-1123 FAX 082-527-1127

デイサービス あらき

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6100

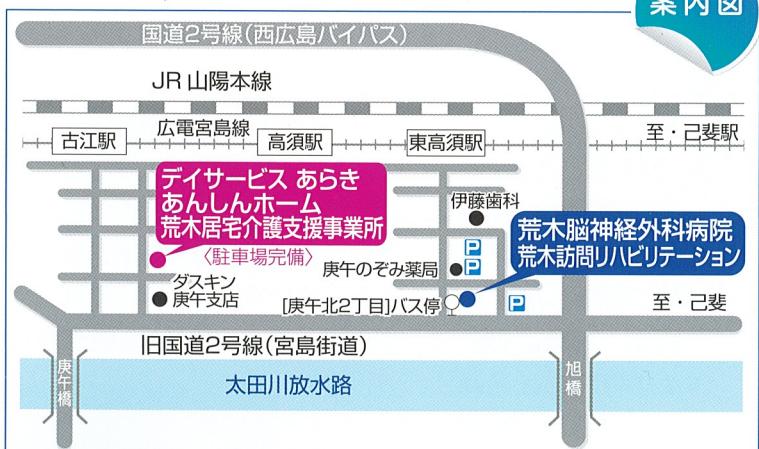
あんしんホーム(認知症対応型共同生活介護施設)

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6600

荒木住宅介護支援事業所

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6300

案内図



交通案内

○自動車

西広島バイパス「庚午出口」より
宮島方向へ100m(宮島街道沿い)

○広島電鉄・宮島線／「東高須」下車 徒歩3分

○広島バス25号線／「庚午北2丁目」バス停前

お知らせ

一面のごあいさつにありますINPHセンターに関する説明等を
今後掲載予定としております。